

速くなる練習、一緒に 高部 鳥取東高 陸上 ジャマイカ選手と親交

ジャマイカ人選手と練習する鳥取東高陸上競技部の生徒たち。23日、鳥取市布勢のヤマタスポーツパーク



25日にヤマタスポーツパーク(鳥取市布勢)で開かれる「布勢スプリント2023」に出場するジャマイカ陸上競技連盟の選手とコーチが23日、鳥取東高陸上競技部と合同練習を行い、同国のナショナルチームが普段行っている練習メニューの一部を一緒に行うなどして親交を深めた。

交流会は鳥取県のホストタウン事業の一環で、新型コロナウイルスによる中断を経て4年ぶりに実施。ヤマタスポーツパークでの合同練習には、ジャマイカの20歳以下女子100以内記録を持つツアラナ・リード選手(18)、女子400以内5位のアリア・ベイカー選手(17)、16歳以下男子100以内1位のシャクウェイン・ゴードン選手(16)の3人と、陸上部の生徒約40人が参加した。

ジャマイカ陸連のコーリー・ベネットコーチが、ウォーミングアップとスタートタッチを指導。ベネットコーチは「視線を落とすな」「体が柔らかくなればなるほど速くなるぞ」などとアドバイスした。

大学でも競技を続けるという3年生の戸板実穂さん(17)は「きれいなフォームを見て速さを実感した」と感激し、ベイカー選手は「布勢スプリントではベストを出したい」と話した。

(本高尾修)